

2025年3月9日（日）

老球の細道857号

ミニバスケットボール会津地区新人大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

2月の会津の記録的な大雪で開催が危ぶまれたミニバスケット新人地区大会が無事終了した。今大会を運営するために大雪に対する駐車場の整備、選手の送迎などに対するミニバス地区連盟の役員、保護者、コーチ、レフリー等の方々の並々ならぬ苦労があった。新型コロナの時もそうであったが、スポーツは世の中の平穏が前提として成り立っていることを実感させられた。

大会は男子が磐梯ブラックダイヤモンドズ圧勝での優勝、女子は猪苗代ミニの初優勝で幕を閉じた。優勝した男女2チームはオールコートで激しくディフェンスをしかけて、そこからトランジションオフェンスと王者の戦略戦術で順当な勝利となった。新人戦にもかかわらず相当なスキルと体力を擁するダイヤモンドの原石があちこちのチームに存在していた。私の息子達の頃（1980年代）に会津地区のミニバスケットが活性化し始めたが、あの頃のゲーム内容とスキルのレベルを思い起こすと隔世の感がある。

そもそもミニバスが日本に誕生するきっかけになったのは1964年の東京五輪の時期である。青少年の体力不足が問題になり始め、日本のバスケットボール界も「競技力の向上」と「底辺の拡大」という二大目標を立てて、小学生のバスケットボールに本格的に目を向けるようになった。

その後1966年に小学校の学習指導要領の改訂によって、正課体育の中でバスケットボールが指導できるようになった。これを好機ととらえた日本バスケットボール協会は、すぐに小学生用のルール作成に取りかかった。この時作成した「ミニバス公式ルール」では、ゴールの高さを2・6m、ボールは5号球を用い、登録されたメンバーを全員試合に出場させることが明記され、小学生に合わせた教育的配慮がなされたのである。

1970（昭和45年）3月、京都バスケットボール協会50周年の記念行事として、京都、松江、東京、岡崎、芦屋、大阪から6つの小学生チームが集まって第1回「全国ミニバスケットボール教室交換会」が開催された。ミニバスの誕生である。以後、急速に普及して、1976（昭和51）年に「日本ミニバスケット連盟」が設立されて現在に至っている。（谷釜尋徳著『バスケットボール秘史』光文社新書より）。

会津地区においてもこの頃に矢部則夫氏（現協会副会長）、鈴木力雄氏（前会津若松市スポーツ推進室長）、中根茂治氏（日新ミニバス創設者）、故伊藤博道氏（前県ミニ連会長）などのご尽力によってミニバス連盟の組織が確立され、普及、強化の実績が積み上げられた。

3月末開催される全国大会は、ミニバスの根源に関わるルール改正（3Pルール、ゴールの高さ3・05m、6号球ボール）で行われる。しかし、先日の県理事会では、県、地区大会においては従来のルールで試合を行う指導があった。これからミニバスは強化にかうのか、普及を維持するのか、それとも両立を目指して新たな改革がなされるのか。